

市内の神社仏閣

市内には、旧城下町らしく、藩主やその家臣に縁のあるお寺や古い謂れのある神社がたくさんあります。ここではその中のほんの一部しか取り上げていませんが、それぞれの地域で大切にされているお寺や神社は他にもまだまだたくさんあります。



福厳寺 奥州町 (MAP 2-㉔)

福厳寺は立花家の菩提寺で、天正15(1587)年、立花宗茂が岳父戸次道雪の菩提を弔うため建立したものです。城下にある他の寺から独立しているかのように、離れて建てられているのは、藩主家の菩提寺ならではの特徴といえそうです。
伽藍は、東に山門、北に本堂、南に天王殿、西に鐘鼓楼(しょうこうろう)と開山堂が配されており、本堂前や西側には柳川城址から移された板碑六地藏もあります。本堂裏には、歴代藩主を祀った御霊屋(おたまや)三棟がコの字型に整然と並んでいます。
また、西側一帯は墓地となっていますが、この墓地には芥川賞を受賞した長谷健や直木賞を受賞した檀一雄の墓もあり、芥川賞作家と直木賞作家が同一墓地に並んでいる所は他に例がないということです。



台照院 西魚屋町 (MAP 2-㉓)

台照院はかつて法華寺と呼ばれていた日蓮宗のお寺で、柳河地区の他のお寺と同様、立花家や藩の重臣と縁のあるお寺です。台照院の名は、ここに葬られた藩主忠茂の実兄立花内膳正政俊の法名「台照院殿宗繁日源」に由来しています。
お寺の本堂の天井には天女の絵が描かれていますが、当時の赤色もよく残り、今でもとてもきれいです。手前の格天井一枚一枚にも素敵な絵が描かれており、その保存状態も良好です。



西方寺 恵美須町 (MAP 2-㉔)

西方寺は、足利将軍家の子孫・足利安芸守政信改め慶信の開山による由緒あるお寺です。慶信は、天正15(1587)年に柳川に招かれ、正行村の法雲寺の住職になりましたが、翌年、現在の場所に西方寺を開きました。藩政期には浄土真宗本願寺派の触頭として藩内の同派寺院を束ねていたといわれています。
本堂と山門は江戸時代に建設されたとされる古いもので、山門は通常の四脚門とは違う独特の形状をしており、柳川地方で創造された様式といわれています。



真勝寺 新町 (MAP 2-㉔)

真勝寺は、延徳年間(1489~1491)創建といわれる古い歴史を持つお寺で、藩政期には真宗大谷派の触頭として栄えました。
柳川の国づくりに大きな業績を残した田中吉政の菩提寺として有名ですが、もともと真勝寺(当時は真教寺)を柳川の地に招き、大事にしたのは立花宗茂でした。その後、筑後国主として入封した吉政からも篤い保護を受け、その没後、現在の位置に大伽藍を建立し、真勝寺と改号したようです。
現在の本堂も田中吉政の墓の上に建てられており、その本堂自体が吉政の墓ともいわれています。吉政の墓石は本堂北側から床下を通って参拝できるようになっており、参道と墓石のまわりは竹壁で囲まれて厳肅な雰囲気になっています。



天叟寺 鍛冶屋町 (MAP 2-㉔)

天叟寺は臨済宗妙心寺派のお寺で、柳川藩主・立花宗茂の実父で、大友家の武将高橋紹運の菩提寺として知られています。寛永12(1635)年に2代藩主忠茂が高橋紹運の菩提を弔うため建立したのが始まりとされています。
天正14(1586)年、九州平定をもくろみ北上した島津義久の軍勢に対し、紹運は筑前岩屋城に籠り奮戦しますが、同年7月、ついに岩屋城は陥落し、紹運以下700余名の将兵は壮烈な最期をとげます。この時の戦没者の位牌が天叟寺に置かれており、毎年7月27日に紹運の供養とともに法要が営まれています。



良清寺 西魚屋町 (MAP 2-㉔)

良清寺は、柳川藩主・立花宗茂の正室閨千代(ぎんちよ)の菩提寺で、その名は、閨千代の院号「光照院殿泉誉良清大禅定尼」に由来しています。
開山は、戦国時代の柳川城主蒲池氏の出で、瀬高の来迎寺の住職であった応誉。元和7(1621)年、立花宗茂が閨千代を弔うために応誉を招いて建立し、応誉の子孫は代々住職を勤めると共に、還俗して蒲池氏を再興し藩士として寺を守りました。江戸時代は立花氏と蒲池氏のゆかりの寺として、寺を預かった蒲池家は立花家の家老格の処遇を受けていたということです。



崇久寺 東蒲池 (MAP 1-㉔)

創立年代は不明ですが後醍醐天皇の勅願寺で、かつては寺域4町の大伽藍だったといわれている古寺です。戦国時代以降は蒲池氏が再建修造に力を尽くしていたと思われ、今の寺号は蒲池治久の法名「崇久」とったものです。
本尊の十一面観音座像は南北朝から室町時代の作と伝えられ、他にも寺の開山・南山大和尚の頂相(ちんざう・禅僧の肖像)などの貴重な文化財が残されています。参道には天文2(1553)年蒲池鑑盛が建立した一千部塔など、蒲池氏ゆかりの寺らしい史跡もあります。
広々とした田園地帯に囲まれ、静かに佇む崇久寺は、蒲池氏が栄えた中世の雰囲気を感じさせる場所でもあります。

日吉神社 坂本町 (MAP 2-㉔)

正応3(1290)年、近江国坂本の日吉神社の分霊を移したのが起源といわれており、蒲池氏が柳川城を築いて以来この地の鎮護の神として、田中吉政や立花宗茂をはじめ、歴代藩主の信仰も篤く栄えてきた神社です。現在も、初詣やお宮参りなどで市内の産土神として敬われており、毎年お正月には巨大なお多福の門が参道に現れ、地元はもちろん、近隣からの参拝者でも賑わいます。
境内には、木村緑平の碑や長谷健の文学碑、うなぎ供養碑など多くの石碑もあります。

